

(様式第 10)

26 医大病第 176 号
平成 26 年 10 月 3 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 公立大学法人福島県立医科大学 (印)
理事長 菊地 臣一

福島県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒960-8055 福島市野田町 1 の 1 4 の 2 2
氏 名	菊地 臣一

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

公立大学法人福島県立医科大学附属病院

3 所在の場所

〒960-1295 福島県福島市光が丘 1 番地 電話(024)547-1021
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1循環器内科 2血液内科 3消化器内科 4リウマチ科 5神経内科 6呼吸器内科	
7漢方内科 8腫瘍内科 9小児科腫瘍内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1消化器外科 2呼吸器外科 3乳腺外科 4小児外科 5心臓血管外科 6形成外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input checked="" type="radio"/> 1精神科 <input checked="" type="radio"/> 2小児科 <input checked="" type="radio"/> 3整形外科 <input checked="" type="radio"/> 4脳神経外科 <input checked="" type="radio"/> 5皮膚科 <input checked="" type="radio"/> 6泌尿器科 7産婦人科
<input checked="" type="radio"/> 8産科 <input checked="" type="radio"/> 9婦人科 <input checked="" type="radio"/> 10眼科 <input checked="" type="radio"/> 11耳鼻咽喉科 <input checked="" type="radio"/> 12放射線科 13放射線診断科
14放射線治療科 <input checked="" type="radio"/> 15麻酔科 <input checked="" type="radio"/> 16救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1病理診断科 2リハビリテーション科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
49床	2床	14床	1床	713床	778床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	356人	79.3人	435.3人	看護補助者	61人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	3人	6.4人	9.4人	理学療法士	11人	臨床検査技師	66人
薬剤師	31人	0.6人	31.6人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	9人	その他	0人
助産師	30人	0人	30人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	646人	16.9人	662.9人	臨床工学技師	13人	医療社会事業従事者	12人
准看護師	1人	2.8人	3.8人	栄 養 士	0人	その他の技術員	11人
歯科衛生士	2人	0人	2人	歯科技工士	0人	事務職員	115人
管理栄養士	9人	0人	9人	診療放射線技師	44人	その他の職員	79人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	32人	眼科専門医	12人
外科専門医	38人	耳鼻咽喉科専門医	12人
精神科専門医	3人	放射線科専門医	10人
小児科専門医	25人	脳神経外科専門医	8人
皮膚科専門医	4人	整形外科専門医	19人
泌尿器科専門医	6人	麻酔科専門医	6人
産婦人科専門医	11人	救急科専門医	9人
		合 計	196人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	547.8人	5.0人	552.8人
1日当たり平均外来患者数	1419.0人	35.7人	1454.7人
1日当たり平均調剤数			763.1剤
必要医師数			140人
必要歯科医師数			3人
必要薬剤師数			19人
必要(准)看護師数			324人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備		概 要	
集中治療室	270.1 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	12床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 103.16m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	13床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 42.3 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	938.1m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置東芝C16000-2台他			
細菌検査室	86.2m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細菌同定感受性装置WaikAway96Plus他			
病理検査室	25.7m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動固定包埋装置、自動染色装置、顕微鏡 マイクローム・クリオスタット			
病理解剖室	121.4m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、医療用照明灯、電動棚			
研究室	114.5m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 顕微鏡			
講義室	522.7m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	459人
図書室	1,954m ²	鉄筋コンクリート	室数	4室	蔵書数	22万2,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	78.5%	逆紹介率	47.4%
算出根拠	A: 紹介患者の数		10,386人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,400人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,719人
	D: 初診の患者の数		17,732人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	4人
光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	29人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。
 (注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
化学療法に伴うカフェイン併用療法	3人
重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病に対する脳死ドナー又は心停止ドナーからの膵島移植	0人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	4人
慢性心不全に対する和温療法	5人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	140人	・膿疱性乾癬	14人
・多発性硬化症	78人	・広範脊柱管狭窄症	3人
・重症筋無力症	121人	・原発性胆汁性肝硬変	158人
・全身性エリテマトーデス	405人	・重症急性膵炎	18人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	4人
・再生不良性貧血	99人	・混合性結合組織病	60人
・サルコイドーシス	213人	・原発性免疫不全症候群	5人
・筋萎縮性側索硬化症	27人	・特発性間質性肺炎	91人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	283人	・網膜色素変性症	19人
・特発性血小板減少性紫斑病	186人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	8人	・肺動脈性肺高血圧症	45人
・潰瘍性大腸炎	234人	・神経線維腫症	54人
・大動脈炎症候群	34人	・亜急性硬化性全脳炎	4人
・ビュルガー病	7人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	4人
・天疱瘡	71人	・慢性血栓性肺高血圧症	0人
・脊髄小脳変性症	48人	・ライゾゾーム病	0人
・クローン病	82人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	10人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	24人
・悪性関節リウマチ	22人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	254人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	44人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	15人
・後縦靭帯骨化症	14人	・肥大型心筋症	97人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	9人	・ミトコンドリア病	3人
・ウェゲナー肉芽腫症	3人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	3人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	94人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	10人	・黄色靭帯骨化症	100人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	8人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	361人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般・結核7対1、精神10対1)	・
・診療録管理体制加算2	・
・臨床研修病院入院診療加算	・
・救急医療管理加算	・
・超急性期脳卒中加算	・
・妊産婦緊急搬送入院加算	・
・急性期看護補助体制加算	・
・重症者等療養環境特別加	・
・無菌治療室管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算	・
・感染防止対策加算	・
・患者サポート充実加算	・
・ハイリスク妊婦管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・
・新生児特定集中治療室退院調整加算2、3	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・救急搬送患者地域連携受入加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・データ提出加算	・
・救命救急入院料	・
・新生児治療回復室入院医療管理料	・
・一類感染症患者入院医療管理料	・
・小児入院医療管理料2	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・ロービジョン検査判断料
・糖尿病合併症管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・がん性疼痛緩和指導管理料	・内服・点滴誘発試験
・移植後患者指導管理料	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
・糖尿病透析予防指導管理料	・画像診断管理加算2
・院内トリアージ実施料	・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影
・ニコチン依存症管理料	・冠動脈CT撮影加算
・地域連携診療計画管理料	・外傷全身CT加算
・がん治療連携計画策定料	・心臓MRI撮影加算
・がん治療連携管理料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・外来化学療法加算1
・薬剤管理指導料	・無菌製剤処理料
・医療機器安全管理料1	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・医療機器安全管理料2	・運動器リハビリテーション料(I)
・歯科治療総合医療管理料	・呼吸器リハビリテーション料(I)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・がん患者リハビリテーション料
・検体検査管理加算(IV)	・精神科ショートケア「小規模なもの」
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・医療保護入院等診療料
・植込型心電図検査	・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)
・時間内歩行検査	・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
・胎児心エコー法	・一酸化窒素吸入療法
・ヘッドアップティルト試験	・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る)
・皮下連続式グルコース測定	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・長期継続頭蓋内脳波検査	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・神経学的検査	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・補聴器適合検査	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科診療に係るものに限る)下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。歯科診療に係るものに限る)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2	・広範囲顎骨支持型装置埋込手術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・麻酔管理料(I)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・麻酔管理料(II)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・放射線治療専任加算
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・外来放射線治療加算
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・高エネルギー放射線治療
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・定位放射線治療
・補助人工心臓	・定位放射線治療呼吸移動対策加算
・経皮的大動脈遮断術	・病理診断管理加算
・ダメージコントロール手術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・腹腔鏡下肝切除術	・
・生体部分肝移植術	・
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・
・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術	・
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・
・同種死体腎移植術	・
・生体腎移植術	・
・膀胱水圧拡張術	・
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む)に掲げる手術	・
・輸血管理料 I	・
・輸血適正使用加算	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・内視鏡手術用施設機器加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・超音波骨折治療法(四肢骨折のうち開放骨折及び粉碎骨折)	・
・画像等手術支援加算(実物大臓器立体モデルによるもの)	・
・悪性腫瘍組織検査(抗悪性腫瘍剤感受性検査HDR A法又はCD-DSI法)	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	骨軟部、呼吸器、脳腫瘍、リンパ・血液、消化器カンファ: 1回/月 乳腺: 2回/月、甲状腺・内分泌: 1回/3ヵ月、 小児腫瘍: 1回/週、CPC: 5回/年、
剖 検 の 状 況	剖検症例数 34 例 院内 27/345 / 部検率 7.83 %

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脳脊髄液減少症の診断・治療の確立に関する研究	宇川義一	神経内科	250千円	補委 厚生労働省
スモンに関する調査研究	杉浦嘉泰	神経内科	600千円	補委 厚生労働省
運動失調症の病態解明と治療法開発に関する研究	宇川義一	神経内科	1,500千円	補委 厚生労働省
重度嗅覚障害を呈するパーキンソン病を対象としたドネペジルの予後改善効果に関する研究	宇川義一	神経内科	1,000千円	補委 厚生労働省
单相性反復磁気刺激によるヒト大脳・小脳・脊髄の可塑性誘導法の開発・その他の基礎と臨床	宇川義一	神経内科	1,000千円	補委 文部科学省
不均一連発磁気刺激のてんかんに対する臨床応用およびその生理学的検討	榎本 雪	神経内科	300千円	補委 文部科学省
中枢神経モジュレーターと意思決定	小林俊輔	神経内科	1,246千円	補委 文部科学省
運動皮質可塑性から見たパーキンソン病治療計画の立案	榎本博之	神経内科	500千円	補委 文部科学省
2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験 課題3(J-DOIT3)	渡辺 毅	糖尿病内分泌代謝内科	380千円	補委 厚労省
放射性セシウムが内部被曝が糖代謝に及ぼす影響についての研究	佐藤 博亮	糖尿病内分泌代謝内科	1,787千円	補委 文科
代謝関連眼底自発蛍光による加齢黄斑変性の病態解明	石龍鉄樹	眼科	1,560千円	補委 日本学術振興会
脈絡膜・強膜観察による黄斑疾患発症のメカニズムの解明	伊勢重之	眼科	1,430千円	補委 日本学術振興会
血管内皮細胞タイトジャンクションの動的評価によるウイルス感染関連脳症の病態の解明	細矢 光亮	小児科学講座	800千円	補委 日本学術振興会 科学研究費
低酸素が心臓形態形成期の胎児心行動態に及ぼす影響について	桃井 伸緒	小児科学講座	800千円	補委 日本学術振興会 科学研究費
腎糸球体の障害再生過程におけるM1・M2マクロファージの役割と再生促進因子の解明	川崎 幸彦	小児科学講座	1,100千円	補委 日本学術振興会 科学研究費
RSV感染症克服を目指した「RSV妊婦ワクチン」の基礎的研究	橋本 浩一	小児科学講座	1,400千円	補委 日本学術振興会 科学研究費
マウス胎仔の心エコー検査による胎児プログラミングの実証的研究	青柳 良倫	小児科学講座	700千円	補委 日本学術振興会 科学研究費
慢性肺疾患発症予防への吸入ステロイド療法による炎症性細胞とサイトカインとの関連	今村 孝	小児科学講座	700千円	補委 日本学術振興会 科学研究費
臍帯血中ヒトグルコシルコリドレセプターの発現とステロイド抵抗性に関する検討	小笠原 啓	小児科学講座	500千円	補委 日本学術振興会 科学研究費
ワクチンによる予防可能な疾患に対する予防接種の科学的根拠の確立及び対策の向上に関する研究	細矢 光亮	小児科学講座	1,200千円	補委 厚生労働省 科学研究費
プリオン病及び遅発性ウイルス感染に関する調査研究	細矢 光亮	小児科学講座	2,100千円	補委 厚生労働省 科学研究費
被災地における心不全患者の在宅療法に関する研究	竹石恭知	循環器内科・血液内科	500千円	補委 厚生労働省
大規模災害における循環器病診療の体制と手法の確立に関する多施設共同研究	竹石恭知	循環器内科・血液内科	2,350千円	補委 厚生労働省
特発性心筋症に関する調査研究	竹石恭知	循環器内科・血液内科	300千円	補委 厚生労働省

抗加齢に着目した難治性心不全に対する新しい治療法の開発	竹石恭知	循環器内科・血液内科	1,400千円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
バイオマーカーを用いた急性冠症候群の病態解明と早期診断確立に向けた研究	中里和彦	循環器内科・血液内科	1,300千円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
遺伝子セットを用いたMDS症例でのAML移行リスクの評価法の確立	野地秀義	循環器内科・血液内科	1,200千円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
HMGA2の造血器腫瘍異常クローン拡大・増殖における役割の解明	池田和彦	循環器内科・血液内科	1,400千円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
睡眠時無呼吸症候群合併及び非合併心不全患者に対する呼吸補助療法の確立	義久精臣	循環器内科・血液内科	2,400千円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
急性骨髄性白血病における腫瘍マーカーと予後予測遺伝子セットの探索	松本勇人	循環器内科・血液内科	900千円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
PDE3Aが持つ多面的な心保護作用の探索と心不全治療への応用	及川雅啓	循環器内科・血液内科	1,600千円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
梗塞後リモデリングにおけるpentraxin3とインフラマソームとの関連	鈴木 聡	循環器内科・血液内科	1,600千円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
慢性心不全患者における心臓リハビリテーションの効果	佐藤崇匡	循環器内科・血液内科	1,100千円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
梗塞後リモデリングにおけるpentraxin3とインフラマソームとの関連	鈴木 聡	循環器内科・血液内科	1,000千円	補委	アストラゼネカ 研究サポート
PNHクローンの新たな免疫学的拡大機序と拡大抑制に関する基礎的検討	七島 勉	循環器内科・血液内科	500千円	補委	公立大学法人福島 県立医科大学 平成25年度研究 支援事業
心臓再同期療法による心室逆リモデリング成立後の心機能破綻機序と予知に関する研究	鈴木 均	循環器内科・血液内科	500千円	補委	公立大学法人福島 県立医科大学 平成25年度研究 支援事業
AMLの新たな層別化の試み:白血病細胞における治療抵抗因子の同定	七島晶子	循環器内科・血液内科	500千円	補委	公立大学法人福島 県立医科大学 平成25年度研究 支援事業
統合失調症死後脳における異常タンパク質の半網羅的プロファイル解析	國井泰人	福島医大神経精神医学講座	700千円	補委	文科省
統合失調症脳内タンパク質群の発現解析ータンパク質多項目同時測定システムを用いてー	國井泰人	福島医大神経精神医学講座	2,700千円	補委	学術振興会

計 15件

統合失調症脳内タンパク質多項目同時測定解析及び関連遺伝子発現解析	國井泰人	福島医大神経精神医学講座	1,500千円	補 委	新潟大学
双極性障害の神経病理学に基づく診療法の開発	國井泰人	福島医大神経精神医学講座	300千円	補 委	厚労省
成人期の軽度発達障害患者における聴覚性感覚記憶の障害に関する研究	板垣俊太郎	福島医大神経精神医学講座	400千円	補 委	文科省
ドーパミン系とグルタミン酸系との調節因子DARPPのコントローラーPin1の解析	日野瑞城	福島医大神経精神医学講座	1,000千円	補 委	文科省
慢性疼痛の症状維持モデルに基づく認知行動療法の効果:主観的評価と脳機能の観点から	本谷 亮	福島医大神経精神医学講座	1,300千円	補 委	文科省
統合失調症における脳資質代謝の視覚的網羅解析	松本純弥	福島医大神経精神医学講座	1,300千円	補 委	文科省
包括型脳科学研究推進支援ネットワーク	丹羽真一	福島医大神経精神医学講座 会津医療センター	1,000千円	補 委	学術振興会
東日本大震災における精神疾患の実態についての疫学的調査と効果的な介入法の開発についての研究—一般身体科受診者における原発事故の精神的影響—	丹羽真一	福島医大神経精神医学講座 会津医療センター	3,500千円	補 委	厚労省
特定健康診査による個人リスク評価に基づく、保健指導と連結した効果な慢性腎臓病(CKD)地域医療連携システムの制度設計	渡辺 毅	腎臓高血圧内科	17,865千円	補 委	厚労省
進行性腎障害に関する調査研究	渡辺 毅	腎臓高血圧内科	3,200千円	補 委	厚労省
かかりつけ医/非腎臓専門医と腎臓専門医の協力を促進する 慢性腎臓病患者の重症化予防のための診療システムの有用性を検討する研究	渡辺 毅	腎臓高血圧内科	400千円	補 委	厚労省
慢性腎臓病の認知能低下におけるカルボニルストレスの病態と治療に関する研究	中山 昌明	腎臓高血圧内科	336千円	補 委	文科
腎産生GABAの分泌調節が、高血圧の成因維持に果たす役割の解明	谷田部 淳一	腎臓高血圧内科	733千円	補 委	文科
保存期慢性腎臓病の病態とリスク管理における慢性間歇的低酸素の意義の検討	旭 浩一	腎臓高血圧内科	1,168千円	補 委	文科
腎臓病治療のための電解水透析用の電解RO水製造装置と、水素腹膜透析用の水素付加機器の研究開発	中山 昌明	腎臓高血圧内科	4,197千円	補 委	JST

生活習慣病関連基盤と高血圧治療支援システムの開発	谷田部 淳一	腎臓高血圧内科	1,500千円	補委	JST
血液透析患者に対する電解水透析の前臨床研究	中山 昌明	腎臓高血圧内科	3,636千円	補委	福島県
先進的な低カリウム化技術による大規模スマート植物工場ビジネスの実証(透析患者による低カリウムレタス摂取の安全性と有用性に関する研究)	谷田部 淳一	腎臓高血圧内科	7,000千円	補委	経産省
若年発症Ⅰ型糖尿病に対する再生膵島移植—膵島細胞シートの同種移植	山下方俊	臓器再生外科	1,600千円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
若年発症Ⅰ型糖尿病に対する再生膵島移植—膵島細胞シートの異種移植	石井 証	臓器再生外科	1,600千円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
膵島細胞シートを用いた複合型新生膵島組織の開発	清水裕史	臓器再生外科	1,600千円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
膵癌患者における骨髄由来抑制性細胞の影響と治療を介した免疫環境変動に関する検討	見城 明	臓器再生外科	1,200千円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
肺癌のエピジェネティクス異常を標的とした化学療法耐性メカニズムの解明	鈴木弘行	臓器再生外科	1,500千円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
Tissue Engineeringをもちいた抗腫瘍免疫応答の誘導	後藤満一	臓器再生外科	1,400千円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
イオンチャネル制御と小胞体ストレス応答制御による膵島の恒常性維持とその応用	穴澤貴行	臓器再生外科	1,500千円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
精度の高い臓器がん登録による診療ガイドラインや専門医育成への活用に関する研究	後藤満一	臓器再生外科	13,562千円	補委	厚生労働省
がん登録からみたがん診療ガイドラインの普及効果に関する研究—診療動向と治療成績の変化—	後藤満一	臓器再生外科	200千円	補委	厚生労働省
重症低血糖発作を合併するインスリン依存性糖尿病に対する脳死および心停止ドナーからの膵島移植	後藤満一	臓器再生外科	22,510千円	補委	厚生労働省
全ての臓器と組織移植症例の一元的な登録と追跡制度の確立ならびにドナーとレシピエントの安全性確保とQOL向上に関する研究	後藤満一	臓器再生外科	200千円	補委	厚生労働省
標準療養不応の肺がん有効な新規がんペプチドワクチン療法の開発と創薬展開	鈴木弘行	臓器再生外科	900千円	補委	厚生労働省
ヒト膵および大動物(ブタ)膵の膵島分離技術の改良と臨床展開	佐藤直哉	臓器再生外科	300千円	補委	福島県立医科大学 研究支援事業 (海外研究(短
血管内治療のための大血管内遊離血栓と粥腫を捕捉する方法の研究	高瀬 信弥	心臓血管外科	3,770千円	補委	独立行政法人 日本学術振興会

神経皮膚症候群に関する調査研究	齋藤 清	脳神経外科	900千円	補委	厚生労働省
髄膜腫の悪性サブグループの発生メカニズムを解明する	岸田悠吾	脳神経外科	800千円	補委	独立行政法人日本学術振興会
心・大血管連関と運動耐容能からみた高齢者における心不全の機序の探求	高野真澄	集中治療部	500千円	補委	公立大学法人福島県立医科大学平成25年度研究支援事業育成研究
脳内アナンドアミドが全身麻酔に及ぼす影響の検討	村川雅洋	麻酔科学講座	1,675千円	補委	日本学術振興会科学研究費助成会
麻酔薬の耐性とカンナビノイド関連薬剤	箱崎貴大	麻酔科学講座	1,883千円	補委	日本学術振興会科学研究費助成会
芍薬甘草湯の鎮痛作用機序の解明	井石雄三	麻酔科学講座	1,000千円	補委	日本学術振興会科学研究費助成会
末期がん患者の死の過程における傾眠の質的な検討	佐藤薫	麻酔科学講座	500千円	補委	公立大学法人福島県立医科大学平成25年度研究支援事業育成研究
テブレノンによるHsp70誘導と周術期臓器保護の可能性	中野裕子	麻酔科学講座	31千円	補委	公立大学法人福島県立医科大学平成25年度研究支援事業育成研究
神経再生軸索の分散と収束に関する実験的研究	上田和毅	福島県立医科大学形成外科	600千円	補委	学術振興会
気管支喘息に対するぜんそく死の予防や自己管理手法の普及に関する研究	棟方 充	呼吸器内科	1,000千円	補委	厚生労働省
G蛋白質共役受容体アレインを用いた新規肺癌標的分子の探索	横内 浩	呼吸器内科	800千円	補委	文部科学省
肺結核における抗結核薬血中の血中濃度測定の有効性の検討	大島 謙吾	呼吸器内科	800千円	補委	文部科学省
平成25年度福島県革新的医療機器開発実証事業「ものづくりinふくしま」が創出する生体模倣材料-超精密微細加工製純タンパク膜による硬組織の再生	長谷川博	歯科口腔外科	46,000千円	○補委	福島県
iPS細胞由来気管上皮の作製と分化機構の解明	大森 孝一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,331千円	補委	独立行政法人日本学術振興会
組織工学的手法を用いた気管再生における上皮形成メカニズムの解明	多田 靖宏	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	747千円	補委	独立行政法人日本学術振興会
先天性サイトメガロウイルス感染による聴覚障害の治療長期予後に関する研究	松井 隆道	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,400千円	補委	独立行政法人日本学術振興会
軟骨細胞及び軟骨膜細胞を利用した気管軟骨の再生に関する研究	野本 幸男	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,304千円	補委	独立行政法人日本学術振興会
自家軟骨細胞を用いた喉頭の軟骨欠損部の再生	野本 美香	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,104千円	補委	独立行政法人日本学術振興会
線維芽細胞増殖因子を用いた気管再建	谷 亜希子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,996千円	補委	独立行政法人日本学術振興会
マウスiPS細胞由来胚様体を用いた気管上皮再生	大槻 好史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	900千円	補委	独立行政法人日本学術振興会
ウサギ生体由来多能性幹細胞(Muse細胞)を利用した気管再生	鈴木 亮	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,100千円	補委	独立行政法人日本学術振興会
気管・喉頭再生治療法の実用化推進研究	大森 孝一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	33,250千円	補委	厚生労働省
スキャフォールドと細胞を融合した気管の再生医療技術の研究開発	大森 孝一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	5,045千円	補委	独立行政法人科学技術振興機構(JST)
コラーゲンヒトリゲルを用いた人工気管に対する研究開発	大森 孝一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	4,000千円	補委	農林水産省

計 24件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

合計 102件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Hiromasa Ohira	消化器・リウマチ膠原病内科	Clinical features of hepatocellular carcinoma in patients with autoimmune hepatitis in Japan.	Journal of Gastroenterology
2	Atsushi Takahashi	消化器・リウマチ膠原病内科	Liver dysfunction in patients with systemic lupus erythematosus.	Internal Medicine
3	Kyoko Katakura	消化器・リウマチ膠原病内科	Innate immunity and inflammatory bowel disease: a review of clinical evidence and future application.	Clinical Journal of Gastroenterology
4	Fumiko Katsushima	消化器・リウマチ膠原病内科	Expression of micro-RNAs in peripheral blood mononuclear cells from primary biliary cirrhosis patients.	Hepatology Research
5	Kyoko Monoe	消化器・リウマチ膠原病内科	Evaluation of nailfold capillaroscopy findings in patients with primary biliary cirrhosis.	Hepatology Research
6	Yukiko Kanno	消化器・リウマチ膠原病内科	Anti-phosphoenolpyruvate carboxykinase 2 antibody in patients with autoimmune hepatitis.	Hepatology Research
7	宇川義一	神経内科	Quadri-pulse stimulation induces stimulation frequency dependent cortical hemoglobin concentration changes within the ipsilateral motor cortical network	Brain Stimulation, 6, 40-48, 2013
8	宇川義一	神経内科	Cortical hemoglobin concentration changes underneath the coil after single-pulse transcranial magnetic stimulation: a near-infrared spectroscopy study	J Neurophysiol, 109, 1626-1627, 2013
9	宇川義一	神経内科	Supplementary motor area stimulation for Parkinson disease. A randomized controlled study	Neurology, 80, 1400-1405, 2013
10	宇川義一	神経内科	Effects of the motor cortical quadri-pulse transcranial magnetic stimulation (QPS) on the contralateral motor cortex and interhemispheric interactions	J Neurophysiol, 111, 26-35, 2013
11	宇川義一	神経内科	Cortical hemoglobin concentration changes underneath the coil after single-pulse transcranial magnetic stimulation: A near-infrared spectroscopy (NIRS) study	J Neurophysiol, 109, 1626-1673, 2013
12	宇川義一	神経内科	Deterioration of horizontal saccades in progressive supranuclear palsy	Clin Neurophysiol, 124, 354-363, 2013
13	宇川義一	神経内科	Bidirectional effects on inter-hemispheric resting-state functional connectivity induced by excitatory and inhibitory repetitive transcranial magnetic stimulation	Human Brain Mapping, 2013
14	宇川義一	神経内科	New perspectives on the pathophysiology of Parkinson's disease as assessed by saccade performance: A clinical review	Clinical Neurophysiology, 124, 8, 1491-1506
15	SATOH Hiroaki	糖尿病内分泌代謝内科	Pitavastatin Ameliorates Insulin Resistance in Type 2 Diabetic Patients: Report of Two Cases.	Journal of Diabetes and Metabolism, 4(1), 1000237, 2013.
16	HIRAI Hiroyuki	糖尿病内分泌代謝内科	Interaction between resistin and adiponectin in the proliferation of rat vascular smooth muscle cells.	Molecular and Cellular Endocrinology, 366(1), 108-116, 2013 Feb
17	SATOH Hiroaki	糖尿病内分泌代謝内科	Yacon diet (Smallanthus sonchifolius, Asteraceae) improves hepatic insulin resistance via reducing Trb3 expression in Zucker fa/fa rats.	Nutrition and Diabetes, 27;3:e70, 2013 May.
18	SAITO M	Department of Ophthalmology, Fukushima Medical University School of Medicine, 1 Hikarigaoka, Fukushima, 960-1295, Japan.	Two-Year Results of Combined Intravitreal Anti-VEGF agents and Photodynamic Therapy for Retinal Angiomatous Proliferation.	Jpn J Ophthalmol, 57, 211-220, 2013.
19	FURUTA M	Department of Ophthalmology, Fukushima Medical University School of Medicine, 1 Hikarigaoka, Fukushima, 960-1295, Japan.	Submacular choroidal neovascularization at the margin of staphyloma in tilted disc syndrome.	Retina, 33, 71-76, 2013.
20	SAITO M	Department of Ophthalmology, Fukushima Medical University School of Medicine, 1 Hikarigaoka, Fukushima, 960-1295, Japan.	Two-year results of combined intravitreal ranibizumab and photodynamic therapy for polypoidal choroidal vasculopathy. Graefes	Arch Clin Exp Ophthalmol. 251, 2099-2110, 2013.
21	SAITO M	Department of Ophthalmology, Fukushima Medical University School of Medicine, 1 Hikarigaoka, Fukushima, 960-1295, Japan.	Two-year results of intravitreal ranibizumab for polypoidal choroidal vasculopathy with recurrent or residual exudation.	Eye (Lond), 27, 931-939, 2013.

計 21件

45	鈴木 聡	循環器内科・血液内科	Acute heart failure volume control multicenter randomized (AVCMA) trial: Comparison of tolvaptan and carperitide	Journal of Clinical Pharmacology 53 (12), 1277-1285, 2013
46	宮田真希子	循環器内科・血液内科	Senescence marker protein 30 has a cardio-protective role in doxorubicin-induced cardiac dysfunction	PLoS One 8 (12), e79093, 2013
47	鈴木 均	循環器内科・血液内科	Efficacy of intrathoracic impedance and remote monitoring in patients with an implantable device after the 2011 great East Japan earthquake	International Heart Journal 55 (1), 53-57, 2014
48	中村裕一	循環器内科・血液内科	High-sensitivity cardiac troponin T predicts non-cardiac mortality in heart failure	Circulation Journal 78 (4), 890-895, 2014
49	岩谷章司	循環器内科・血液内科	Phosphodiesterase 3A1 protects the heart against angiotensin II-induced cardiac remodeling through regulation of transforming growth factor- β expression	International Heart Journal 55 (2), 165-168, 2014
50	坂本信雄	循環器内科・血液内科	Serum tenascin-C level is associated with coronary plaque rupture in patients with acute coronary syndrome	Heart and Vessels 29, (2), 165-170, 2014
51	松本純弥	神経精神医学講座	Mental disorders that exacerbated due to the Fukushima disaster, a complex radioactive contamination disaster.	Psychiatry Clin Neurosci 68:182-187, 2014.
52	三浦至	神経精神医学講座	Near-infrared spectroscopy and plasma homovanillic acid levels in bipolar disorder: a case report	Neuropsychiatr Dis Treat 10:507-511, 2014.
53	三浦至	神経精神医学講座	Switching antipsychotics to aripiprazole or blonanserin and plasma monoamine metabolites levels in patients with schizophrenia.	Hum. Psychopharmacol Clin Exp (2014)
54	三浦至	神経精神医学講座	BDNF Val66Met polymorphism and antipsychotic-induced tardive dyskinesia occurrence and severity: a meta-analysis.	Schizophr Res. 2014 Feb; 152(2-3): 365-72. doi:10.1016/j.schres.2013.12.011. Epub 2014 Jan 7.
55	和田 明	神経精神医学講座	Changes in the condition of psychiatric inpatients after the complex fukushima disaster.	Fukushima J Med Sci. 59 (1), 39-42:2013.
56	沓沢有希子	神経精神医学講座	High plasma monoamine metabolite levels in Cotard's syndrome.	Psychiatry Clin Neurosci, 10, 1111/pcn, 12129, 2013.12.
57	國井泰人	神経精神医学講座	Revisiting DARPP-32 in postmortem human brain: changes in schizophrenia and bipolar disorder and genetic associations with t-DARPP-32 expression.	Mol Psychiatry. 19(2): 192-9, 2014.
58	國井泰人	神経精神医学講座	Elevated postmortem striatal t-DARPP expression in schizophrenia and associations with DRD2/ANKK1 polymorphism.	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2014 Apr 3. pii: S0278-5846
59	國井泰人	神経精神医学講座	Article: Elevated Postmortem Striatal t-DARPP Expression in Schizophrenia and Associations with DRD2/ANKK1 Polymorphism.	Progress in Neuro-Psychopharmacology and Biological Psychiatry Clinical and Experimental Nephrology, 17(5), 718-724. 2013
60	WATANABE Kimio	腎臓高血圧内科	Acute changes in home blood pressure after the Great East Japan Earthquake among patients with chronic kidney disease in Fukushima City.	Fukushima Journal of Medical Science, 59(1), 56-62, 2013.
61	WATANABE Kimio	腎臓高血圧内科	Hypertrophic cranial pachymeningitis in mpo-anca-related vasculitis: a case report and literature review.	Hypertension Research, 36(9), 759-761, 2013
62	TANAKA Kenich	腎臓高血圧内科	Aftercare for the prevention of a secondary health disaster in survivors of major earthquakes.	Internal Medicine, 52(4), 425-430, 2013
63	TANI Yoshihiro	腎臓高血圧内科	The Clinical Applicability of Albuminuria Testing in Japanese Hypertensive Patients: The AVA-E Study.	Medical Gas Research, 3(1), 14, 2013
64	TERAWAKI Hiroyuki	腎臓高血圧内科	Transperitoneal administration of dissolved hydrogen for peritoneal dialysis patients: a novel approach to suppress oxidative stress in the peritoneal cavity.	Peritoneal Dialysis International, 33(1), 8-14, 2013 Jan.
65	NAKAYAMA Masaaki	腎臓高血圧内科	Nonuremic Indication for Peritoneal Dialysis for Refractory Heart Failure in Cardiorenal Syndrome Type II: Review and Perspective.	Peritoneal Dialysis International, 33(5), 573-576, 2013
66	TERAWAKI Hiroyuki	腎臓高血圧内科	Unroofing surgery with en bloc resection of the skin and tissues around the peripheral cuff.	

77	Nakamura Y	整形外科	Minimally invasive surgery for osteoid osteoma of the cervical spine using microendoscopic discectomy system	Asian Spine J. 7(2):143-7.2013
78	Otani K	整形外科	Research Article Lumbar Spinal Stenosis Has a Negative Impact on Quality of Life Compared with Other Comorbidities: An Epidemiological Cross-Sectional Study of 1862 Community-Dwelling Individuals	ScientificWorldJournal.2013 Dec 23;2013:590652. doi: 10.1155/2013/590652
79	Hakozaki M	整形外科	Overexpression of Cyclooxygenase-2 in Malignant Peripheral Nerve Sheath Tumor and Selective Cyclooxygenase-2 inhibitor-Induced Apoptosis by Activating Caspases in Human Malignant Peripheral Nerve Sheath Tumor Cells	PLoS One. 2014 Feb 6;9(2):e88035. doi: 10.1371
80	Higuchi Mitsunori	Department of Chest Surgery, Division of Surgery, Fukushima Medical University School of Medicine	Anomalous systemic arterial supply to the Basal segments of the lung.	Fukushima Journal of Medical Science 59(2): 93-96, 2013
81	Saze Zenichiro	University of Pittsburgh Cancer Institute, University of Pittsburgh School of Medicine Fukushima Medical University	Adenosine production by human B cells and B cell-mediated suppression of activated T cells.	Blood 122(1): 9-18, 2013
82	Shimizu Hirofumi	Department of Surgery 1, Fukushima Medical University	Topographical Arrangement of α - and β -Cells Within Neo-islet Tissues Engineered by Islet Cell Sheet Transplantation in Mice.	Transplantation Proceedings 45(5): 1881-1884, 2013
83	Suzuki Hiroyuki	Department of Regenerative Surgery, Fukushima Medical University, School of Medicine	Multiple therapeutic peptide vaccines consisting of combined novel cancer testis antigens and anti-angiogenic peptides for patients with non-small cell lung cancer.	Journal of Translational Medicine 11:97, 2013
84	Watanabe Yuzuru	The First Department of surgery, Fukushima Medical University	An Extremely Elderly Patient with Lung Cancer Who Underwent Surgery.	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 19(5): 382-385, 2013
85	安藤 等	脳神経外科	Peptide-based inhibition of the HOXA9/PBX interaction retards the growth of human meningioma	Cancer Chemotherapy Pharmacol 73 (1): 53-60, 2014
86	Kojima Yoshiyuki, Takahashi Norio, Haga Nobuhiro, Nomiya Masanri, Yanagida Tomohiko, Ishibashi Kei, Aikawa Ken, David I Lee	泌尿器科学講座	Urinary incontinence after robot-assisted radical prostatectomy: pathophysiology and intraoperative techniques to improve surgical outcome.	Int J Urol. 2013 Nov;20(11):1052-63.
87	Mohan S. Gundeti, Yoshiyuki Kojima, Nobuhiro Haga, Kyle Kiriluk	泌尿器科学講座	Robotic-assisted laparoscopic reconstructive surgery in the lower urinary tract.	Curr Urol Rep. 14:333-41.2013.
88	Hayashi Yutaro, Mizuno Kentaro, Moritoki Yoshinobu, Nakane Akihiro, Kato Toshiki, Kurokawa Satoshi, Kamisawa Hideyuki, Nishio Hidenori, Kohri Kenjiro, Kojima Yoshiyuki	泌尿器科学講座	Can spongioplasty prevent fistula formation and correct penile curvature in TIP urethroplasty for hypospadias?	Pediatric Urology, 81: 1330-1335, 2013
89	Mizuno Kentaro, Kojima Yoshiyuki, Kamisawa Hideyuki, Moritoki Yoshinobu, Okada Atsushi, Kubota Yasue, Yasui Takahiro, Kohri Kenjiro, Hayashi Yutaro	泌尿器科学講座	Gene expression profile during testicular development in patients with SRY-negative 46,XX testicular disorder of sex development.	Urology,82:1453.e1-7, 2013

101	大槻 好史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Potential for respiratory epithelium regeneration from induced pluripotent stem cells.	Ann Otol Rhinol Laryngol. 2013; 122(1): 25-32
102	今泉 光雅	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Evaluation of the use of induced pluripotent stem cells (iPSCs) for the regeneration of tracheal cartilage.	Cell Transplantation. 2013; 22(2): 341-353
103	鈴木 政博	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	The contribution of neck dissection for residual neck disease after chemoradiotherapy in advanced oropharyngeal and hypopharyngeal squamous cell carcinoma patients.	Int J Clin Oncol. 2013; 18(4): 578-584
104	谷 亜希子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Regenerative process of tracheal epithelium using a collagen vitrigel sponge scaffold.	Laryngoscope. 2013; 123(6): 1469-1473
105	野本 美香	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Bioengineered trachea using autologous chondrocytes for regeneration of tracheal cartilage in a rabbit model.	Laryngoscope. 2013; 123(9):2195-2201

計 5件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

合計 105件

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	遠藤久仁	福島県立医科大学附属病院小児外科	当科におけるHirschsprung病に対する治療法の変遷.	福島医学雑誌. 63(2):108-112, 2013
2	大杉 純	福島県立医科大学臓器再生外科学講座	単房性胸腺嚢胞壁内に発生した胸腺腫の1例.	日本呼吸器外科学会雑誌. 27(4):114-119, 2013
3	清水裕史	福島県立医科大学臓器再生外科	外科治療が奏功したmegacystis microcolon intestinal hypoperistalsis syndromeの1例.	日本小児外科学会雑誌. 49(6):1117-1121, 2013
4	渡邊 譲	福島県立医科大学呼吸器外科	Good症候群の1切除例.	日本呼吸器外科学会雑誌. 27(1):106-112, 2013
5	渡邊 譲	総合南東北病院呼吸器外科 福島県立医科大学附属病院臓器再生外科学講座	放射線治療が奏功した縦隔原発粘液線維肉腫の1例.	日本呼吸器外科学会雑誌. 27(6):766-771, 2013
6	山下方俊	福島県立医科大学附属病院小児外科	小腸閉鎖症を合併した腹壁破裂に回腸瘻を造設し, sutureless closure を施行した1症例.	日本小児外科学会雑誌. 1(49):35-38, 2013
7	松山純子	脳神経外科	Primary CNS lymphoma arising in the region of the optic nerve presenting as loss of vision: 2 case reports, including a patient with a massive intracerebral hemorrhage	Brain Tumor Pathol 31: 222-228, 2014
8	黒澤 伸	麻酔科	Glucocorticoid mediates the transcription of OAT-PG, a kidney-specific prostaglandin transporter.	European Journal of Physiology 2013, Sep 21.
9	黒澤 伸	麻酔科	Differential roles of prostaglandin E-type receptors in activation of hypoxia-inducible factor 1 by prostaglandin E 1 in vascular-derived cells under non-hypoxic conditions.	Peer J 2013 Nov 28;1:e220. doi: 10.7717/peerj.220; eCollection 2013.
10	黒澤 伸	麻酔科	Decreased expression of a novel prostaglandin transporter, OAT-PG, facilitates renocortical PGE2 accumulation during rat pregnancy.	Gynecologic and Obstetric Investigation 2013, DOI: 10.1159/000353977
11	黒澤 伸	麻酔科	Logistic regression analysis of risk factors for prolonged pulmonary recovery in children from aspirated foreign body.	International Journal of Pediatric Otorhinolaryngology 2013, DOI: 10.1016/j.ijporl.2013.07
12	黒澤 伸	麻酔科	Lower incidence of emergence agitation in children after propofol anesthesia compared with sevoflurane: a meta-analysis of randomized controlled trials.	Journal of Anesthesia 2013, DOI: 10.1007/s00540-013-1656-y
13	黒澤 伸	麻酔科	Differences in the released endothelial microparticle subtypes between human pulmonary microvascular endothelial cells and aortic endothelial cells in vitro.	Experimental Lung Research, DOI: 10.3109/01902148.2013.784932, 2013
14	今泉 光雅	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	iPS細胞を用いた喉頭・気管の再生医学研究	喉頭. 2013; 25(2): 30-35
15	多田 靖宏	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	局所麻酔下の喉頭内視鏡手術	喉頭. 2013; 25(2): 66-69
16	大森 孝一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	生体内組織再生誘導型の人工気管を用いた気道再建	再生医療. 2013; 12(1): 57-63
17	松塚 崇	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	甲状腺・頭部嚢胞性疾患に対する経皮的エタノール注入術	頭頸部外科. 2013; 23(2): 261-266
18	谷 亜希子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	サイノジェクト®による上顎洞洗浄の工夫	日本耳鼻科学会誌. 2013; 52(1): 25-29

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するもの
 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

計 18件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 研究等に関する倫理審査申請に必要な提出書類や審査スケジュール、申請する際に留意すべき点などをまとめている。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 委員会の設置や対象事象の審議等について規定している。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容 倫理指針の内容、倫理審査申請手続き及び利益相反に係る対応等について周知している。	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

1 後期研修プログラムの特徴

- (1) コース制を導入し、コースディレクターの指導により専門医研修を受ける。
- (2) 当院と研修協力病院が共同で研修を行い、専門医資格取得に必要な多くの症例・症状等を経験できる。
- (3) 総合内科・外科専門医コースでは、専門医資格取得に必要な症例を確保するため、臓器別ローテートを実施する。
- (4) 大学院生・大学院研究生との併願を認めており、専門医と博士号の同時取得が可能である。

2 後期研修プログラムの管理・運営組織

研修の最終責任者は、当院の病院長であり、研修修了の認定は病院長が行う。

- (1) 病院長のもとに、後期研修管理委員会を設置し、次の事項を行うこととする。

ア 後期研修プログラムの全体的な管理

イ 後期研修者の全体的な管理

ウ 後期研修者の研修状況の評価

エ 採用時における後期研修希望者の評価

オ 後期研修後及び中断後の進路について、相談等の支援を行うこと

- (2) 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

ア 病院長

イ 副病院長（教育研修担当）

ウ 部長会で選任したコースディレクター 4名

エ 事務部長

オ その他病院長が必要と認める者

- (3) 委員長は必要があると認める場合、後期研修管理委員会のもとに、コースディレクター会議を招集することができる。

- (4) 委員長は、研修協力病院等との円滑な連絡調整等を行うため、研修協力病院・施設連絡会議を招集することができる。

3 研修期間

- (1) 研修期間は、卒後臨床研修修了後4年以内とし、協力病院での期間を含む。ただし、原則として研修期間のうち1年以上は、当院において研修する。

- (2) (1)にかかわらず、出産・留学等により、研修を中断した期間は、研修期間に含めない。

4 指導体制

後期研修者は研修期間中、後期研修管理委員会において管理され、コースディレクター・副コースディレクターの指導のもと研修を受ける。

5 後期研修の評価

各コースで定めた評価項目に基づき、コースディレクター・副コースディレクターは評価を行う。研修終了時に、この評価資料をもとに、後期研修管理委員会が最終的な評価を行い、病院長に上申する。

病院長は研修を修了したと認定された後期研修者に対して、病院長名で後期研修修了証を授与する。

2 研修の実績

研修医の人数	71.8 人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
竹石 恭知	循環器内科	部長	27年	
小川 一英	血液内科	部長	27年	
大平 弘正	消化器内科	部長	27年	
渡辺 浩志	リウマチ・膠原病内科	部長	24年	
中山 昌明	腎臓・高血圧内科	部長	30年	
渡辺 毅	糖尿病・内分泌代謝内科	部長	39年	
宇川 義一	神経内科	部長	36年	
棟方 充	呼吸器内科	部長	37年	
鈴木 弘行	呼吸器外科	部長	24年	
竹之下 誠一	消化管外科	部長	38年	
後藤 満一	肝胆膵・移植外科	部長	38年	
大竹 徹	乳腺外科	部長	24年	
後藤 満一	小児外科	部長	38年	
鈴木 眞一	甲状腺・内分泌外科	部長	31年	
横山 斉	心臓血管外科	部長	31年	
齋藤 清	脳神経外科	部長	34年	
紺野 慎一	整形外科	部長	30年	
上田 和毅	形成外科	部長	37年	
藤森 敬也	産科	部長	26年	
藤森 敬也	婦人科	部長	26年	
細谷 光亮	小児科	部長	31年	
石龍 鉄樹	眼科	部長	30年	
山本 俊幸	皮膚科	部長	26年	
小島 祥敬	泌尿器科・副腎内分泌外科	部長	19年	
大森 孝一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	部長	29年	
矢部 博興	心身医療科	部長	31年	
宍戸 文男	放射線科	部長	40年	
村川 雅洋	麻酔・疼痛緩和科	部長	34年	
橋本 優子	病理診断科	部長	22年	
長谷川 博	歯科口腔外科	部長	26年	
田勢 長一郎	救急科	部長	38年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 紺野 慎一
管理担当者氏名	医療情報部長 向本 時夫

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療情報部等	患者ごと又は記録ごとに分類し管理・保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	病院経営課	記録ごとに分類し管理・保管している。
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	教育研修支援課	
	閲覧実績	病院経営課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携・相談室	
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課		
第規一則号第一に掲げる十の体制第一項の各号及び第九条の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	記録ごとに分類し管理・保管している。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療連携・相談室	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部	記録ごとに分類し管理・保管している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医薬品安全使用部会	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医薬品安全使用部会	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医薬品安全使用部会	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医薬品安全使用部会	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学センター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 紺野 慎一	
閲覧担当者氏名	病院経営課長 齋野 和則	
閲覧の求めに応じる場所	病院棟3階 病院経営課	
閲覧の手続の概要 閲覧の請求があった場合は、院内の規定に基づき諸記録の閲覧もしくは提供を行っている。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1 安全管理に関する基本的考え方 2 医療事故防止対策委員会、その他の組織に関する基本的事項 3 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針 4 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7 患者からの相談への対応に関する基本方針 8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： 1 委員会の管理及び運営規定の策定・改正に関すること 2 重要な検討内容について、患者への対応状況を含め管理者へ報告する 3 重大な問題が発生した場合に、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに従業者への周知を図る 4 委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行う	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年4回
・ 研修の主な内容： 医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について、従業者へ周知徹底を行うことで、個々の従業者の安全に対する意識、安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識の向上等を図るもの。	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1 当院で発生した事故を委員会への報告する 2 あらかじめ定められた手順、事故収集の範囲等に関する規定に従い事例を収集、分析する。これにより当院における問題点を把握して、当院の組織としての改善策の企画立案及びその実施状況を評価し、当院においてこれらの情報を共有する 3 重大な事故の発生時には、速やかに管理者へ報告する	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(3名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(3名)・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員：専任(3)名 兼任(4)名 ・ 活動の主な内容： 1 委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他委員会の庶務に関すること 2 事故等にかんする診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行う 3 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行う。 4 事故等の原因究明が適切に実施されて居ることを確認するとともに、必要な指導を行う	

5 医療安全に係る連絡調整に関すること 6 その他医療安全対策の推進に関すること	⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無
---	--------------------------------------	-----

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1 院内感染対策に関する基本的な考え方2 院内感染対策のための委員会、その他の組織に関する基本的事項3 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5 院内感染発生時の対応に関する基本方針6 患者等に対する指針の閲覧に関する基本方針7 その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1 委員会の管理及び運営規定の策定・改正に関すること2 重要な検討内容について、院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応状況を含め、管理者へ報告する3 院内感染が発生した場合は、速やかに発生原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに従業者への周知を図る4 委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行うこと	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年22回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>院内感染対策のための基本的考え方及び具体的方策について、従業者へ周知徹底を行うことで、個々の従業者の院内感染に対する意識を高め、業務を遂行する上での技能やチームの一員としての意識の向上等を図るもの。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☑・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1 院内のみでは対応が困難な事態が発生した場合、又は発生したことが疑われる場合に、地域の専門家等に相談が行われる体制の確保2 院内感染対策マニュアルの定期的な見直し	

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容： 1 医薬品の有効性・安全性に関する情報、使用方法に関する事項 2 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項 3 医薬品による副作用等が発生した場合の対応に関する事項	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： 1 医薬品の採用・購入に関する事項 2 医薬品の管理に関する事項 3 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 4 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 5 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 6 他施設との連携に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品に係る情報のうち、必要なものは当該情報に係る医薬品を取り扱う従業者に迅速かつ確実に周知徹底を図る (ex. DIニュース、医療安全ニュース、院内報)	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年241回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1 医療機器の有効性・安全性に関する事項2 医療機器の使用法に関する事項3 医療機器の保守点検に関する事項4 医療機器の不具合等発生した場合の対応に関する事項5 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (☑・無)・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none">毎日点検1 患者使用後点検1 回/年・業者による点検	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1 添付文書等の管理2 医療機器に係る安全性情報等を当該医療機器に携わる者に適切に提供する3 病院管理者への報告	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構認定 (平成18年12月18日)	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページ、パンフレット等で先進医療や各診療科の内容について情報の発信を行っている。 また、法人として企画広報戦略推進室を設置し、効果的な広報・情報発信の方法について検討を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 整形外科と精神科における定期的なカンファレンスの実施。	